

日印産連表彰者 受賞者の紹介



印刷功労賞

秋元 裕

富士印刷㈱
代表取締役

印刷工業会



推薦理由

平成 18 年 5 月に印刷工業会の理事に就任し、現在に至るまで理事を務め、長期にわたり印刷産業の普及と地位向上に貢献した。また、平成 26 年 6 月からは日本印刷産業連合会理事、平成 22 年より日本印刷産業連合会技術部会委員としても活躍し、特に自社の新設備の導入において、積極的に新たな形態・仕組みの印刷物の製造に取り組み、その普及に尽力した。

安田 雅美

NTT 印刷㈱
代表取締役社長

印刷工業会



推薦理由

平成 28 年に印刷工業会の理事に就任し、印刷工業会商業印刷部会、情報セキュリティ部会へ積極的な人員の派遣を行う等印刷業界の発展と地位向上に尽力した。また、同社の 6 つの工場にて、GP 認定工場を取得し環境に配慮した印刷を強力に推進した。更には、総発行部数 6,600 万部のタウンページ、ハローページの全てに、2018 年度版より GP マークを掲載し日印産連の GP 推進活動にも大きな貢献をしている。

木村 篤義

創文印刷工業㈱
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



推薦理由

平成 24 年度から平成 29 年度まで 6 年間、全印工連の常務理事、平成 26 年度から 2 年間、東京地区印刷協議会会長などの要職を務める。全印工連においては、環境・労務委員会や資材対策委員会の委員長を歴任、日印産連においても理事のほか、各種委員会に委員として参画、特に平成 25 年から労働安全衛生協議会の委員として、印刷事業所における健康障害防止対策のための諸活動を行った。さらに平成 27 年度から印刷産業環境優良工場審査委員会委員長として、表彰制度の普及・啓発と厳正な審査を行うなど、中小印刷産業の振興・発展向上に果たした功績は顕著である。

萩原 誠

萩原印刷㈱
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



推薦理由

平成 18 年度から 4 年間、東京工組の常務理事、平成 22 年度から全印工連の常務理事などの要職を務める。全印工連においては、経営革新・マーケティング委員会および業態変革推進企画室の副委員長、平成 22 年度からは業態変革推進企画室委員長を歴任し、業態変革実践プラン（全印工連 2010 計画）の策定において中心的な役割を果たした。また、この間、全国印刷メディア協議会の議長も務めるなど、中小印刷産業の振興・発展向上に果たした功績は顕著である。

印刷功労賞

杉山 悟

小林クリエイティブ(株)
顧問

日本フォーム印刷工業連合会



推薦理由

同社は愛知県を代表するフォーム印刷企業として、中部フォーム印刷工業会設立時より会員として参画し、同社の取締役も含め、永きにわたり中部フォーム印刷工業会の役員職を勤め、中部地区の印刷業界の振興に尽力した。更に 日本フォーム印刷工業連合会の常任理事及び理事を歴任し、フォーム印刷産業の発展に寄与した。これらの多大な功績に対して印刷功労賞を推薦する。

佐藤 順

(株)フォト・スタンプ新潟
会長一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会

推薦理由

ジャグラ副会長時代は、経営革新委員会の担当副会長として、ジャグラ年賀状デザインコンテストの立ち上げから、その後の運営まで幅広いアイデアでコンテストの定着を図った。また、北陸地協の担当副会長として、北陸地協の組織拡大および活性化に貢献した。平成26年に新潟で開催されたジャグラ全国大会でも、地元企業をまとめて、運営委員長として大役を果たした。

大野 亮裕

二葉製本(株)
顧問

全日本製本工業組合連合会



推薦理由

長年にわたり全製工連会長、東京工組理事長の要職を務める。この間、「新製本産業ビジョン2018」を策定、組合員への普及推進を図り、製本業の振興発展に大きく貢献した。さらに製本業の取引慣行の是正に取り組み、その成果を「取引慣行改善ガイドブック」として冊子にまとめ、組合員の意識改革を促すなど、製本業の取引慣行改善に果たした功績は大きい。また全国及び東京中央会の税務関係委員を務めるなど、中小企業全体の発展にも貢献した。

田村 壽孝

(株)東京ニュース
代表取締役社長日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会

推薦理由

激化する業態の環境変化に適応したビジネスの構築、企業経営の基盤確立に努めるかたわら、多年にわたってGCJ・GC東京専務理事等の要職を歴任し、その重責を担う。多岐にわたる組合の事業運営に積極的に取り組み、組織の円滑な運営と振興発展に務めた。内外に個性豊かな組合員が集う集団(業界組織)の存在感を発信し、活性化した事業展開に寄与した功績は多大である。

印刷功労賞

濱崎 順一

(株)マツザキ
代表取締役社長

全日本シール印刷協同組合連合会



推薦理由

九州シール印刷協同組合理事長を2期4年(全日本シール副会長重任)を始めにそれぞれ計4期8年役員を務めた。副会長在任中には連合会の年次大会を初めて沖縄県で開催し運営責任者として大成功を収めた。また技術委員会に属して九州協組の技術勉強会では組合員の技術向上に寄与。平成29年の熊本地震の際にも九州協組責任者として初期対応に尽力し混乱なく対応した。

竹下 晋司

(株)ダイコー
代表取締役社長

全国グラビア協同組合連合会



推薦理由

平成17年に関西グラビア協同組合の理事に就任。同20年副理事長に、また同27年に理事長に就任するなど組合の要職を歴任し現在に至っている。全国グラビア協同組合連合会の副理事長も務め、業界の振興発展に貢献し、近年は、青年部を拡充し、関東、関西、東海、九州の青年部に働きかけ、平成28年11月には、名古屋で青年部全国交流会を主事し、今年も九州で開催する運びとなった、次世代の交流に努めた功績は多大である。

三崎屋 義人

(株)ライトマーク社
代表取締役会長

全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会



推薦理由

連合会理事ならびに西日本組合副理事長として、卓越した指導力と行動力をもって団体発展のため努力を積み重ね功績を挙げた。特に大阪から西日本への組合改組に力を尽くし、その後も組織の簡素化・機能化を図り、将来を見据えた団体運営に大きく貢献した。今なお90歳で現役理事を務め、社業経営60年の経験を活かし若手育成などに指導力を発揮している。

滝藤 栄二

(株)共和ビニール化工紙社
代表取締役

全日本光沢化工紙協同組合連合会



推薦理由

全日本光沢の理事・副会長として業界運営に務める一方、中部光沢化工紙協同組合設立当初より理事・副理事長の要職を務め、組合の基礎を築き組織強化・振興発展に寄与。特に、組合員相互の親睦企画に尽力した。また、光沢化工専門業者として28歳の時から家業を継ぎ業界発展に果たした役割は誠に顕著である。



印刷振興賞

山賀 武

昌栄印刷株式会社
常務取締役

印刷工業会



推薦理由

平成18年から現在に至るまでの12年間にわたり、情報セキュリティ部会の部会長を務め現在も在任中である。その間、部会において、新技術や新たなビジネスの展開になりうる様々な勉強会・見学会を開催し、部会運営に尽力した。

久保田 秀明

凸版印刷株式会社
情報コミュニケーション事業本部
TICクリエイティブ本部

印刷工業会



推薦理由

POP、カタログ、カレンダーなどの企画制作業務に長年携わり、部門責任者として印刷会社におけるクリエイティブ部門の地位向上と人材育成に貢献した。平成20年～28年まで、カタログ展及びカレンダー展の委員長を務めた。

山崎 泰男

光村印刷株式会社
印刷・情報生産統括本部
プリプレスセンター部長

印刷工業会



推薦理由

入社以来製版関連の部署に所属し、新進技術の習得、後進への伝承に邁進した。難易度・要求度の高い仕事においても高品質であると評価され、特に平成26年、川越工場でのジャパンカラー認証の際は、製版の知識と習得した技術の蓄積を発揮し、同社に同認証をもたらした。

浜田 淳

竹田印刷株式会社
関東事業部
品質技術部副部長

印刷工業会



推薦理由

入社後、枚葉印刷機のオペレータとして技術力の向上へ熱心に取り組み、その後、現場責任者として品質管理・安全作業への啓蒙活動、予防処置の徹底に努め、後進の教育・育成指導を積極的に実施。その結果、関東事業部 越谷工場 無労災記録2500日（7月1日現在）に寄与した。

三上 伸

青森オフセット印刷株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



推薦理由

平成16年度からの14年間、全印工連理事、青森工組理事長および東北地区印刷協議会幹事・副会長などの要職を務める。また、全印工連の業態変革推進企画室の副委員長として業態変革プランの策定に尽力した。財政改革特別委員としても、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

坂部 登

坂部印刷株式会社
代表取締役

全日本印刷工業組合連合会



推薦理由

平成24年度からの6年間、全印工連理事、山形工組理事長および東北地区印刷協議会幹事の要職を務める。また、全印工連の官公需対策協議会議長を務め、主に地方の主要な発注先である官公庁からの受注に関する取引改善を進め、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

印刷振興賞

佐野 龍一

㈱佐野印刷
代表取締役社長

全日本印刷工業組合連合会



推薦理由

平成 23 年度から平成 29 年度までの 7 年間、全印工連理事、山梨工組理事長および関東甲信越静地区印刷協議会幹事の要職を務める。この間、中小印刷産業の地位向上、組織強化の推進に尽力するなど、中小印刷産業の発展向上に大きく貢献した。

西 智樹

㈱バスカル・プリンティング
代表取締役社長

日本フォーム印刷工業連合会



推薦理由

平成 18 年に理事に就任以来、平成 22 年からは北海道フォーム印刷工業会の副会長と会長を歴任。平成 26 年には北海道で理事会を開催し、北海道の会員との交流を深めた。更に平成 26 年から 2 年間、日本フォーム印刷工業連合会の常任理事に就任し、全国とのパイプ役も果たした。

神崎 徳三

㈱木万屋商会
取締役営業本部長

日本フォーム印刷工業連合会



推薦理由

平成 23 年に日本フォーム印刷工業連合会の常任理事・環境委員長に就任し、豊富な知識と指導力で会員企業の環境に対する意識を高める活動を行った。平成 27 年からは印刷産業環境優良工場表彰の審査委員としても活躍し、団体の枠を超えて印刷産業の環境施策の推進に携わる。

岩下 登

㈱登プリント社
代表取締役

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



推薦理由

ジャグラ副会長時代は、ジャグラ組織拡大委員会の委員長を務める。ジャグラの組織拡大、会員増強、および組織の基盤造りに大いに貢献した。また、ジャグラ近畿地協会長、大阪グラフィックサービス工業会理事長を務め、近畿地協の発展と活性化に貢献した。

林田 桂一

㈱東京文久堂
代表取締役

一般社団法人
日本グラフィックサービス工業会



推薦理由

ジャグラ理事および常任理事時代は、ジャグラ教育技術委員会に所属し、会員のデジタル教育の推進と啓蒙に努める。また、ジャグラ個人情報保護委員会として H19 年 5 月～H30 年 5 月までの 11 年間にわたり、会員企業の個人情報保護に貢献した。

伊藤 光昌

伊藤手帳㈱
取締役会長

全日本製本工業組合連合会



推薦理由

多年にわたり愛知工組の副理事長、理事長を務め、この間、愛知県製本業の振興発展に貢献したほか、長年、愛知県製本業技能検定委員として製本技能検定試験の円滑な運営に尽力した。

印刷振興賞

清水 清司

(有) 清水製本所
代表取締役

全日本製本工業組合連合会



推薦理由

平成 24 年より京都工組の副理事長を務める。平成 27 年の全製工連全国大会（京都大会）の開催に際しては、実行委員長として同大会を成功に導き、全国同業者の結束と親交を深めた功績は大きい。

石本 忠廣

(有) イシモト写植
代表取締役

日本グラフィックコミュニケーションズ
工業組合連合会



推薦理由

企業経営に従事するかたわら、多年にわたり業界団体組織の要職を歴任し、現在 G C J 理事、G C 中国専務理事として全国及び中国地区の組織振興に努める。各種の組合事業及び業務全般の運営に尽力した功績は多大である。

山下 庫太

(有) 啓佑社
取締役会長

全日本シール印刷協同組合連合会



推薦理由

全日本シール印刷協同組合連合会では 3 期 6 年常務理事兼技術特許委員長を務め、会員の技術伝承に尽力。特に各地域での座学講習や実機を使っでの実技指導によって後世への指導には定評がある。現在運用中の「技術優良工場認定」に際しては連合会の礎になるよう尽力した。

桧山 栄一

㈱オリエント総業
専務取締役

全国グラビア協同組合連合会



推薦理由

グラビア輪転印刷機メーカーの工場長および専務取締役を永く歴任し、グラビア印刷機の近代化・高性能化に寄与。一貫した現場主義を通じ、国内は下より、アジア諸国の技術振興に寄与した。

中尾 淳子

㈱共進プロセス
代表取締役

全日本スクリーン・デジタル
印刷協同組合連合会



推薦理由

45 年にわたる印刷技術の蓄積に加え、仕上げ加工まで一貫生産を行い、ユーザーニーズへの即応が高く評価された。また東京組合初の女性理事として重職を担い業界の発展向上に尽力した。

木村 亨

旭紙化工(株)
代表取締役

全日本光沢化工紙協同組合連合会



推薦理由

加入以前より、組合に打ち抜き加工等の特殊加工技術の周知を行っている。理事に就任後は若手とのパイプ役として組織拡大の強化に貢献している。組合では広報委員として事業推進に大きな役目を果たしている。

特別賞

NPO 法人日本自費出版ネットワーク

一般社団法人 日本グラフィックサービス工業会

日本自費出版文化賞の運営 ほか

推薦理由

日本自費出版ネットワークは1997年7月5日にジャグラ会員が中心となり設立した団体で、自費出版を新しい民衆文化ととらえ、その普及を通じて学術、文化、芸術の振興と豊かな市民生活の創造を目指すというもの。

主な活動としては、

- (1) 「自費出版ホームページ」によるデータの蓄積と公開活動。
- (2) 「日本自費出版文化賞」の主管運営。
- (3) 「日本自費出版フェスティバル」の開催。
- (4) 「自費出版ネット書店」の開設。
- (5) 「自費出版アドバイザー」の育成・研修と認証制度の運営。
- (6) 自費出版製作に関するパンフレットの作成。
- (7) これらの目的達成のため、会員相互の交流会と情報交換・研修会の開催。

以上、自費出版の社会的評価の向上、自費出版の記録保存と流通支援、自費出版に関する知識PRとアドバイスのできる体制の確立に努めた。特に日本自費出版文化賞の運営は21回を数える。

